

## 平成 30 年度 第 8 回 伊勢市障害者施策推進協議会自立支援部会 議事録（要旨）

開催日時 平成 31 年 2 月 5 日（火）午前 9 時 30 分～11 時 30 分  
開催場所 伊勢市役所 東館 5－2 会議室  
出席委員 市川知律部会長、嶋垣智之委員、浦田宗昭委員、森見典子委員、川口幸生委員、  
奥村比呂美委員、直江敦代委員、大田桃子委員、田川奈央子委員  
欠席委員 中林英樹委員、岡田まり委員  
事務局 障がい福祉課長、障がい福祉係長、主査  
（庶務担当）伊勢市障害者総合相談支援センター基幹型職員 2 名+  
傍聴者 3 名

### 1 あいさつ

（障がい福祉課長）

地域生活支援拠点整備については、3 月議会にて予算確保に努めている。4 月以降にお伝えしたい。

今月は、事業所連携会議を実施していただくことになっているが、拠点整備も横の繋がりが重要であるのでよろしくお願いしたい。

（部会長）

主任相談支援専門員指導者養成研修の中で、全国の基幹型相談支援センター設置率 30 パーセント、三層構造の重層的相談支援体制の説明があった。伊勢市の相談支援体制は、三層構造ができており、先進事例と比べても遜色ない。

### 2 プロジェクトチームチームの取り組みについて

#### ●それぞれのチームの担当委員からの報告

##### 【地域生活支援拠点チーム】

（担当委員） 1/18 にチームの会議を行い、今までの経過について再確認、論点の整理をした。

・メンバーから、今までにも緊急対応したことがあるが、仕組みが無いために、当たり損と感じたり、対応できたりできなかったりはその時の運になってしまうとの意見があった。緊急対応できることが常態化できる事が必要。

・地域課題の見える化がチームの大きな趣旨ではないかと考えている。

・拠点整備骨子提案では、H31 年度は相談、緊急対応、人材育成のコーディネーターの配置となっている。骨子を踏まえていきたい。

今後のスケジュールとして、毎月 1 回チーム会議を実施することとしたい。検討課題は、相談・コーディネーター関係から始めて、緊急対応機能をまとめていく。丁寧にやっていきたい。

（委員） 緊急対応機能は、虐待も含まれるか。

（担当委員） 急な家族の体調不良時の介護者の派遣、短期入所へ繋がったりということが対象。虐待は市の方で対応するので、現時点では拠点事業の対象にはなっていない。

(事務局) 拠点事業の対象としての現在報告されている人数には、精神科救急も含まれてない。  
(部会長) スケジュールとして、8月頃に施策推進協議会の本会があると思われるので、市に提案したいことは、その時までには提案ができるように議論のまとめが出来ないかと考えている。予算への反映が必要な事柄があれば施策への報告が出来るように。  
(担当委員) 地域の課題が見えているのと見えないのがある。各委員さんの方から、課題を整理して、現状の動き等を見える化して、施策本会へ報告していけると良いと考えている。  
次会は、2月14日に会議予定。

### 【人材確保・養成チーム】

(担当委員) 論点が2点あります。

○まず人材養成について。奈良県の人材確保制度、日本看護協会のクリニカルラダー、三重県の自立支援協議会での取り組み等を参考にさせてもらった。

医療分野や介護分野を超えて学びや交流が出来れば、人材育成につながる。

奈良県の評価・認証制度の取組を参考にさせてもらって伊勢市独自版にできないか、また看護協会のクリニカルラダーを参考に伊勢市版の介護職員版に作成し、客観的にこの事業所にどのようなスキルを持った職員が必要か、そのためにどんな研修が必要かという取り組みができないかという意見が出ている。

○次に、人材確保について。これから仕事として選んでいただくためには、高校生・大学生だけでなく、中学生への福祉教育を、当事者と交流しながらの機会を作っていく方がいいのではないか。

また市民啓発について、地域情報誌等を活用しながら目に見えるような形で取り組むことも必要ではないか、という意見が出ている。

○今後のチームの検討のあり方としては、養成と確保は取り組む方法が若干違うが、検討は一緒にしていきたい。

人材養成については、看護協会クリニカルラダーを伊勢市の介護職員版として検討したい。

人材確保については、事業所の評価認証の仕組みや学生への啓発を考えている。

必要な予算も含め、スケジュール決めていきたいと考えている

次回は、2月8日に会議予定。

○人材チームのメンバーについて、どういった方に集まっていただくとよいのか検討中である。現在の案を基に御意見をいただきたい。

(委員) 福祉教育について。社会福祉協議会では、夏休みに小中学生を対象に『ちょこっと福祉体験』の事業をしている。介護職場に体験に5日間ほど行ってもらうことや、視覚障がいの方との卓球を体験してもらうなどのプログラムをしている。これを活用してもらいたい。社協職員をメンバーに入れてもらうと良いのではないかな。

現在、この事業で障害福祉施設の体験はないが、施設の受入れが前向きならしてもらいたい。高校生は学校からの実習をステップワンなどでやっている。

(部会長) 福祉教育は、社協さんと連携してもらおうと良いのではないかな。

中学生の職場体験には、障害福祉事業所はないのかな？

(事務局) それぞれの中学校が体験先を持っているので、あるかと思う。確認していきたい。

(委員) 広報誌でも学生の活動を市民に伝えられると良い。参考にしていきたい。

(事務局) チームメンバーのうちサービス事業所からのメンバーを2月8日連携会議で選出したいので、サービス事業所種別を確定してほしい。

(部会長) サービス事業所のうち、まず居宅介護と強度行動障害対応事業所についてはこれでいいですか。

次の『事業所の人事・研修担当者』については施設の中で研修計画を立てている方との連携が必要。施設の中で困っていることが見えてこないといけないのでメンバーに入れた方がいいが、2月8日の連携会議では選出難しく、各法人で頑張っている人を別途あたってもらう必要があるかも。

また、県の人材育成ビジョンがある。何年目に何をというビジョンも参考にしてほしい。

先ほどの社協の事業について、中学校の現状はどうか？特定の学校のみ理解あるのか？

(委員) 全部の中学校に周知している。全般に、理解はあると思われる。

(部会長) 人材チームのメンバーとして社協の福祉教育担当を追加し、チームメンバーの人数増えてでも良いのではないかと。チーム担当委員と部会長、事務局で検討することとしたい。

#### 【就労支援チーム】

(担当委員) 1/15に、担当委員と事務局とで打合せを行った。

検討の中心は、今後のあり方とメンバー構成について。

大きな課題は、「連携」である。教育・福祉・雇用分野が連携した障がい者就労支援システムの構築が必要であるとの意見になっている。

また、各機関での就労支援の充実・向上を図るための仕組みの構築も検討したいと考えている。

メンバー構成について、現在の案を元にご意見をいただきたい。

サービス事業所等としては就労移行・就労定着、就労継続A型、B型のそれぞれ参加してもらったほうが良いのではないかと考えている。サービス事業所は、2月8日で候補者を考えたい。

企業関係は、商工会で来てもらうより、企業として来てもらうとよいのではないかと、毎回来てもらうのは難しいかもという意見があり臨時委員としてあげてみた。

追加になるが、学識経験者について、人材チームのように就労チームも臨時で入れたい。

(事務局) 事業所連携会議の出席が現在のところB型、移行・定着のところ出席予定。市内の移行・定着は4カ所なので、一緒でもよいのではとの意見があったが、運営会議では、それぞれの役割があるので、それぞれ参加してもらったほうが良いのではないかと意見だった。

(委員) 具体的に参加できる人がいるなら、分けても良いのではないかと。

(部会長) チーム担当委員と事務局とで検討を勧めてください。

(担当委員) 課題を出すことを優先としているので、就労移行、就労定着それぞれの立場から聞けるならベストと考える。数が少ないなら一緒でも仕方ない。チームの会議時間帯を出やすい配慮をしながら出来ると良い。

### 3 報告会及び事業所等連携会議について

- 事務局より、資料を基に説明。

- ・当日の進行及び発表内容について確認。
- ・連携会議の意見交換の進め方、グループ分けについて確認する。グループの分け方、それぞれの担当部会委員、運営会議委員について、事務局案をつぎのとおり提案する。

参加申込み者 29 名。部会委員、運営委員は含んでない。

訪問・訪看 : 3 名 (担当委員 3 名)

児童 : 0 名

入所・グループホーム : 4 名 (担当委員 2 名)

就労 : 5 名 (担当委員 3 名)

日中 : 6 名 (担当委員 3 名)

相談 : 11 名 (各グループに分散する)

- ・各グループ内の役割はそれぞれで打ち合わせておく。

- ・1月18日、ヘルパー連携会議での意見が連携会議のグループワークで出てくると良いが、出ない場合はその場で司会から報告補足したい。

(部会長) グループワークで困れば、基幹型スタッフ、部会長はフリーでフォローすることとする。

(委員) 今後、連携会議で取り組んでいきたい事とはなにか、どこが主体的にやっていくのか？

伊勢市か？部会か？事業所になるのか？

(事務局) 運営会議では、ゆくゆくは事業所が主体的に運営していける様に、介護事業所のようなイメージを持っている。ただし、自主的運営になっても、組織体は部会と一緒に動けるような位置づけが望ましいのではないかと、という意見である。

(委員) 介護事業所では、年間計画を立てて年数回やっている。

先ず部会で流れを作って引き継ぐ形になるのか。

(部会長) あると良いとは前回の報告会での意見だった。それをどう繋いでいけるかだろう。

前回から参加メンバーも変わっている。今後、継続的に取り組むものなのか、意見を聞くだけなのか、その意見も聞き、決めたら良い。今、事業所が主体的にという話は難しいだろう。

(部会長) 今後、障がい分野も地域包括ケアに取り込まれるだろう。学区単位で支えていこうとなるだろう。一事業所だけで抱え込んでしまうことや、一相談員の人脈での解決ではダメ。情報共有をしていく仕組みが必要である。そのためには、ある程度、公のリードが必要だろう。進化を繋ぎ合わせていく必要はある。

当面は、運営会議等で事務局機能をもって、報告会、勉強会などにて集まる機会を作る。

市内でスーパービジョンをとかの課題に取り組んでいく事になるなどだろう。

第何期などのスパンで決めて、この時期までにここまでなどのスケジュール案は必要。部会に図ってもらおうと良い。

来年度の集まる機会には、ビジョンを事業所とも共有できると良い。

各グループでどうしていきたいなど出てきたら、報告してもらいたい。

#### 4 部会の組織図及びチラシについて

●事務局より、資料を基に説明。

○部会組織図について

(委員) 就労・人材チームは『現在準備中』にしたほうが良い。

(委員) 部会全体でニーズ等を受け止めていると点線に繋がるように

○部会チラシについて

(委員) 就労・人材チームは、同じく『現在準備中』にすると良い。

- ・ニーズからの矢印を、点線全体にかかるようにする。
- ・メッセージの「当事者兼支援者」「住民」を削除

(部会長) いただいた意見を元に、微修正は部会長に一任ということによろしいか。

その他に、意見があれば。

(委員) 地域包括ケアシステムへ統合していくと話もあったが、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に取り組む必要がある。伊勢市周辺は精神科入院病院が無い。

緊急時は、離れた病院へ行くしかない、病識が無いことも多く、訪問看護を入れるが受診が途絶えやすい、退院時は病院近くのグループホームを選ばざるを得ないなど、課題が大変多い。

社会資源、医療資源の現状もあり、精神障がいに特化するものではないが、精神障がいの場合は特に偏見のために引け目を抱えて病院にかかりにくくなってしまいうという状況もある。

この議論もチームなどでしてもらいたい。

(部会長) 精神障がいの方も含めて、望む地域で暮らせるようにあるべき、運営会議で検討したい

(課長) 訪問看護の方も委員となってもらっているので、今後、医療的ケアのこどもへの資源も課題として、議論に入れてもらいたい。議論のテーブルが出来つつあるだけでも、ありがたいと思っている。

## 5 その他

○『いっせーの』の報告

(委員) 障がいを持つ参加者も音楽や交流を楽しんでおり、今後も協力は出来ると良い。

ただ、自立支援部会が共催となっていたが、部会が何なのかが伝わりにくかった。チラシも配れると良い。

(部会長) 市民向けのチラシも作っていきましょう。

○次回部会

(事務局) 次回は、3月5日(火)9:30から 場所は市役所東館 5-2 会議室。